

学び舎ひまわり第5講

私の地域「マイプラン」を作ろう！

開催報告

DATA

日時 平成27年 12月 12日(土) 10時~16時15分

会場 港南区社会福祉協議会

受講生 27名(地域 21名 区役所 6名) 欠席者 10名(地域 8名 区役所 2名)

1. グループ内でマイプランのブラッシュアップ



共通するテーマごとに5つのグループにわかれて、おたがいのマイプランを聞きながら、いいと思ったところやこうの方がもっと良くなるなどのアドバイスをし、自らのプランをブラッシュアップしました。

2. マイプラン全体発表(全12名)

Aグループ テーマ:見守り・つながり

「高齢者、幼児、小学生、障がい者の見守り」



野尻 啓吾
(大久保最戸)

高齢者、幼児、小学生、障がい者など、いわゆる社会的弱者といわれる方々に対する見守りを地域でもっと進めていくため、向こう三軒両隣、もしくは路上での挨拶心がけ運動をします。また、そういった方々が助けを求めたい時にシグナルとして使える黄色いバンダナを配布し、気軽に助けを求められる関係を築いていきます。災害時の備えとして、いっとき避難場所周辺にお住いの方々の把握も必要。住民一人ひとりが主役となり、みんなで支え合うことで、安心安全な地域づくりにつながると思います。

「障害児と保護者のカフェ懇談会」～ハイタッチのできる笑顔と交流のまちづくり



横川 朱實
(大久保最戸)

現在私たちの地区では、子育て中のママ向けや落語、講談とコラボした「ハートカフェ」を開催しています。この地域の障がい者・児とそのお母さんの集まりである「大久保界限の会」から、自分たちも気軽に参加できる場がほしいという声があがり、地域住民と一緒に活動できる場、お互いの理解を深める場、意見や情報を交換できる場として、カフェ懇談会を開催したいと思っています。

内海先生のコメント

単身者の世帯が増えつつある今、地域で顔の見える関係、お互いさまの関係を作るには、何か具体的なことをしていく必要があります。すいとんやカレーパーティなどの話がチーム内で出ていましたが、そういったことの積み重ねで実を結ぶことも。ひとり住まいの自宅を開放する「住み開き(住みながら地域に開ける)」、自治会館を利用する等の動きが出てくると、この地域にあった見守り・つながりの仕組みが作られると思います。

「高齢者のための集い場・語り場『高齢者カフェ』づくり」



岡田 正紀
(笹下)

「高齢者カフェ」を開設するプランを考えました。カフェには高齢者をひとりにしない、会話をする、役割のある暮らしをするなどの目的があり、単に「集まる場」から「自立できる場」に徐々に発展させていきます。カフェ開設の効果として、地域で日頃の安否確認を行うことが出来、また認知症をくいとめることが挙げられます。開設や運営は自治会が統括をしますが、義務となってしまうと負担が大きいので、ボランティアとして運営に関わっていただける方を集めたいと考えています。

「やすらぎと よりそいの美晴台サロン」



渡邊 正一
(永野)

個人宅の庭先・軒先・ガレージなどを使って、ちいさなお店を作り「お店と住む場所が一体となったまちづくり」を目指します。お店は年に数回オープンし、自分の趣味や特技を活かしたもの（コーヒーショップ、占い、工作教室、幼児お遊びコーナーなど）を扱います。こうしてまちを華やかにすることで、交流が生まれ、顔の見える関係作りにつながり、災害時の助け合いにも効果があると思います。眠っている人材の発掘にもなり、自治会活動にも入りやすくなっていくのではないのでしょうか。

内海先生のコメント

岡田さんの提案は、地域の色々な人が集う中で、認知症の人も受け入れられるような場所になればと思いました。認知症と告白するのも難しい今、有意義なものだと思います。また渡邊さんの提案ですが、一軒一軒が閉鎖的な戸建てが多い横浜で、そこにお店を開くことで暮らしがちょっと豊かになるという壮大なプラン。こういった先駆的な提案に対して、行政も地域と一緒に動いていけるよう期待しています。

「子ども達の元気をもらって、明るいまちづくりを！」



湊 博康
(下永谷)

子ども達を通じて、町内の皆さんが顔の見える関係づくりが出来たらと考えました。現在、夏祭りの時に子ども達のために地域の方にお神輿や山車を作ってもらったり、竹を提供してもらってそうめん流しをしたりしています。これらを継続し、子ども達にも運営に参加してもらおうと同時に、親世代、そのまた親世代と一緒に参加することで活動が浸透し、協力者が増え、顔の見える関係づくりが進むのではないかと考えています。

「より元気なまちづくりの計画」～町内協働の連携組織化と実践



齋藤 幸雄
(日野第一)

町内会が縦の関係で成り立っていて、誰が何をしているかがよく分からないと感じています。様々な仕組みや組織、近隣町内会、民間企業などをプラットフォームでつなぎ、住民にとってより住みやすい元気なまちづくりをしたいと思います。たとえば要介護者の支援、生活不活性の予防活動、子どもたちの健やかな成長の場、資源回収、人材育成など、様々なテーマにおいて各種団体が連携して取り組むことで、地域がまとまり、元気度がアップするのではないのでしょうか。そのためには自治会からの関連委員や各団体への働きかけが必要だと考えています。

内海先生のコメント

湊さんのプランは子どもたちの縦の関係の再構築。具体的な所にどう関わってもらうかがポイントになりそうです。小学校高学年くらいから企画に関わってもらおうと、より主体的になると思います。齋藤さんのプランは具体的に連携したらいいと思う素材が色々あるなと感じました。例えば家具の転倒防止器具設置をすすめる男性グループを作り、自治会や委嘱委員、民間企業が連携して防災グッズの配布を行うなど…具体策を見つけ出せるとより実効性のある提案になります。

「地域防災ネットワークの再構築」



竹内 康雄
(永谷)

地域防災ネットワークを構想だけにとどめず、きちんと地域で機能するように再構築することを考えました。もっとも重要な初動対応に中学生・高校生を主体とした「遊動部」を立ち上げ、役員が揃うまで各部の支援活動を行います。彼らがいずれ地域のキーマンになっていってくれたらと思います。またコンビニと連携して災害時の備蓄食料保管契約を締結、地元消防所と連携し実践的な訓練の実施、全国の「芹が谷」という地名のまちと姉妹都市協定を結んで、災害時など相互に扶助し合う等、様々な取組を考えています。

「活かせ！地域の『こども力』！私たちでもできるわくわく？避難所運営！」



岡原 直樹
(下永谷)

夏休みに小学校で防災訓練を行い、避難所運営を体験するプランです。災害時に子ども達が「受け入れてもらう側」から「受け入れる側」として力を発揮することで、より効率的な避難所の運営ができるようになります。ただ講習会などで一方的に説明を聞くだけでは子ども達の興味はひけないので、実際避難所になる小学校の体育館に宿泊し、放水訓練の実演やゲーム方式での講習会、炊き出しや肝試しなど、楽しく防災について学べるよう工夫します。

内海先生のコメント

子ども力を防災に活かしていく動きは市内としても動きがあります。中学生以上になると実動部隊として有効。事業の企画段階から子どもが面白いと関心を持てるようなものにしていけば、さらに子ども達の力を集結していけるのではないのでしょうか。

「“住んでいるまち”から“ずっと住みたいまち”へ」～日野ユース・シニア部



中村 雅也
(日野)

全世代が地域活動に係るようなまちを作りたいという思いのもと、「日野ユース・シニア部」の立ち上げを考えました。町内の中学生高校生を中心に「日野ユース部」を結成、さらに彼らが成人した後は「日野シニア部」に加入します。現在活動中の「日野小おやじの会」にそれが加わることで各世代が地域活動に係ることになります。メンバーが無理なく出来る範囲で参加し、自治会行事の運営に携わることで代的に切れ目のない担い手の確保につながり、より魅力的なまちになると思います。

「町内会が抱える課題」



飯島 英夫
(芹が谷)

町内会の役員が高齢化し、行事の時に動ける人が少なくなっています。若い担い手を何とかして増やせないかという思いのもと、まずは様々な活動の参加者を増やす工夫を考えました。祭り、防災訓練、サークル活動、公園清掃など、回覧板や掲示板を駆使して呼びかけるだけではなく、各部会の部長は口コミで子ども会OBの父母などを中心に参加者を募ります。様々な世代が集まれば行事への参加をきっかけにコミュニケーションを図ることが出来、以後つながりを持って進めていくことが出来ると思います。

内海先生のコメント

担い手に若い世代、ファミリー層を入れていくと、切れ目なく各世代がつながっていきます。年代によって担う役割を変えていくとより地域活動が充実しそうです。また現役世代でも気軽に行事などに参加してもらい、それをきっかけに部分的にでも地域に関わりをもつことが重要です。



「お出かけ増やして健康体に！地域交通の充実を目指して」



野澤 裕美
(永野)

永野地区は坂道が多く、バス停が遠かったり、行きたい所へのバス路線がなかったりと、不便な地域があります。そんな地域の交通網を活性化することで、外に出る機会を増やせればと思い、このプランを考えました。まずは現状分析をするために地域住民との検討の機会を持ちます。そして道路局の地域交通サポート事業などを利用する、町内会で車を所有する、電動自転車の貸し出しをする、ウーバー（車を使い時に呼ぶシステム）の導入など、様々な方法があるので、地域にあった方法を考えていきます。

「企業の手を助した地域づくり」



高嶋 美穂子
(日野第一)

日野第一地区は幹線道路沿いに企業が多く、行事の景品寄付や意見交換会への参加など、既に良好な関係が出来ています。今後もお互いが主催するイベント等に参加することによって顔の見える関係を築くことが出来、いざという時の協力体制が確立されると思います。その他こども110番の店舗版、子どもの職業体験の受け入れ、地域と企業とが連携していくための勉強会の開催を通じて、地域側にも企業側にもメリットがあるような形を検討していけたらと考えています。

内海先生のコメント

企業や事業所など、お金だけでなくノウハウの提供など、出来るところから関わりを持つことが大事な視点です。事業者との信頼関係が出来ると、地域のためと一肌脱ごうという気持ちになります。また連携する時に相手へのメリットを考えることもやはり必要です。

3. 学びのまとめ 集計結果

回収数：26件 回収率：96.3%

満足	やや満足	やや不満	不満
22	4	0	0
85%	15%	0%	0%

受講生の主な意見

- ◎互いの地区の問題点および対策の洗い出しなどが分かり参考になった。
- ◎各連合町内会での活動の差はあるものの、参加されている方々の意気込みが感じられた。
- ◎防災、防犯、地域づくり、高齢者、障がい者など、地域活動の中の様々な課題を具体的に知ることが出来ました。
- ◎別々の問題が実は共通の問題につながっていると思いました。
- ◎他の町会の方々も同じような悩みを抱えているんだと感じました。
- ◎もう一歩実行するために周囲をどう巻き込むのか、意識の共有がカギであり課題と感じました。
- ◎各々のプランに詳細な意見交流がはかれた。発表者のテーマの広さが学びました。
- ◎プラン発表後の内海先生のアドバイスがとても分かりやすかった。
- ◎発表の時間をそろえた方がいいと思います。